

ドリカムプランの紹介

1 定義

平成6年度に開始した福岡県立城南高等学校の「生徒主体の進路学習」

2 福岡県立城南高等学校（平成6年当時）の概要

- ・昭和39年開校、平成5年に創立30周年を迎えていた ・全日制普通科
- ・1学年10クラス ・440名がほぼ進学（うち国公立大学現役合格者が110名程度）
- ・福岡県の第7学区（同学区内に修猷館高校在り） ・新設スパルタで知られていた

3 導入の背景

平成元年告示の新学習指導要領による教育課程（以下、新課程）が、高校において学年進行で始まったのが平成6年4月であった。新学習指導要領では「新しい学力観」に代表されるように興味・意欲・関心・態度にスポットがあたっていたが、その生徒の意欲や関心をどう教育課程の中に実現させるか具体的な方法については各学校に任されていた。

一方、平成6年4月は城南高校が近隣の私学に従来の受験層をさらわれた年でもあった。「新課程のスタート」と「私学の台頭」という二つの危機に城南高校は見舞われていた。

4 ドリカムプランスタートまで

- ①第一学年団の学年目標「新課程・城南元年」
- ②入学生（城南31期生）の変容
- ③第一学年担任団による「新しい学力観」について、情報収集、探索
- ④宮崎県立宮崎西高等学校訪問、宇田津校長との出会い「大学卒業後こそ人生の本番」
- ⑤徒の興味関心に応じて、将来のために役立ちそうなことなら、何でもやらせてみよう。
- ⑦平成6年10月29日「ドリカムプラン」スタート

5 活動内容を時系列で

- ①進路希望調査「10年後、20年後の私」アンケート（後に作文へ）
 - ②ドリカムグループわけ（表1参照）
- ※1 グループ間移動は随時 ※2 それぞれのグループごとに学年別にドリカム顧問が付く

表1

| 番号 | グループ名 | 番号 | グループ名 |
|----|-------|----|-------|
| 1 | 理学 | 6 | 社会科学 |
| 2 | 工学 | 7 | 教育 |
| 3 | 医療保健 | 8 | 芸術 |
| 4 | 生物農学 | 9 | 生活科学 |
| 5 | 人文科学 | | |

③ドリカム活動…「自分の将来のために、役立ちそうな活動なら何でも参加してみよう」という呼びかけによって、生徒が自主的に参加する講座・セミナー、イベント類。平日なら内容によっては授業公欠扱いとする。

例：医療看護系グループの生徒の1日ふれあい看護体験

④職業人講演会…職業人による講話。グループごとに受講

⑤シラバスレポート…大学のシラバスを高校生が読んで「私の学んでみたい講義」としてまとめる。グループで共有。

⑥オープンキャンパスレポート…大学のオープンキャンパスに参加してレポートをまとめる。グループで共有。

⑦ジョイントセミナー…大学教官による学問入門講座。グループごとに受講。

⑧課題研究…4、5人を1班として、班で課題研究。A4 10枚のレポートにまとめる。発表会在り。

※活動報告は各自のドリカムファイルへ。それが受験の際の「活動履歴書」になった。

6 活動時間

①特別活動のホームルーム活動の時間（10クラス合同、当時はミックスホームルーム形式と呼んでいた）

②総合的な学習の時間

7 進路実績（上段は年度、下段は国公立大学現役合格者数、太線がドリカム開始）

| h 2 | h 3 | h 4 | h 5 | h 6 | h 7 | h 8 | h 9 | h 10 | h 11 | h 12 | h 13 | h 14 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|------|------|------|
| 104 | 125 | 121 | 102 | 131 | 103 | 154 | 206 | 222 | 233 | 200 | 286 | 216 |

8 ドリカムの意義

ドリカムプランの意義を一言で言うなら「教師主導の進学指導から生徒主体の進路学習へのモデルチェンジ」である。教師が君はこの偏差値だからこの大学はどう？と勧める進学指導から、生徒自身が自分の将来をあれこれ体験的に探索して、この分野へ進みたいからこの学部を選ぶ、という生徒主体の進路学習へ。

9 ホームルーム活動とドリカムプラン

中教審でも取り上げられる等、全国的な注目を浴び、総合的な学習の時間の先進事例として多くの学校訪問を受けることになった。一通り説明をしたら、ある先生から「そんなの、どの高校のホームルームでもやっている」と評された。その通りである。どの学校のホームルームでも行われていた進路指導を体系化して「ドリカムプラン」という名前をつけたものである。言うならば、高校のホームルーム活動において長年にわたって営々と培われてきた進路指導。

高校生にとって、「自分のキャリアを展望する時間」は、ホームルーム活動と進路学習が設定されている高校の総合的な学習の時間のみ。その意味でホームルーム活動は長年キャリア教育の機能を果たし続けてきた。